

「平成29年度全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立富里小学校】

平成29年4月18日（火）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の実施結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語A・B」、「算数A・B」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

（1）教科に関する調査

〔主として「知識」〕 国語A、算数A	〔主として「活用」〕 国語B、算数B
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則

（2）児童に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

＊調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/17chousa/17chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）と本校児童の状況

（1）教科の調査結果から

国語A（知識）	基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能に関する問題	B
国語B（活用）	基礎的な知識・技能を活用する問題	B
算数A（知識）	数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能に関する問題	B
算数B（活用）	基本的・基礎的な知識・技能を活用する問題	B

☆ 全国平均正答率との比較について

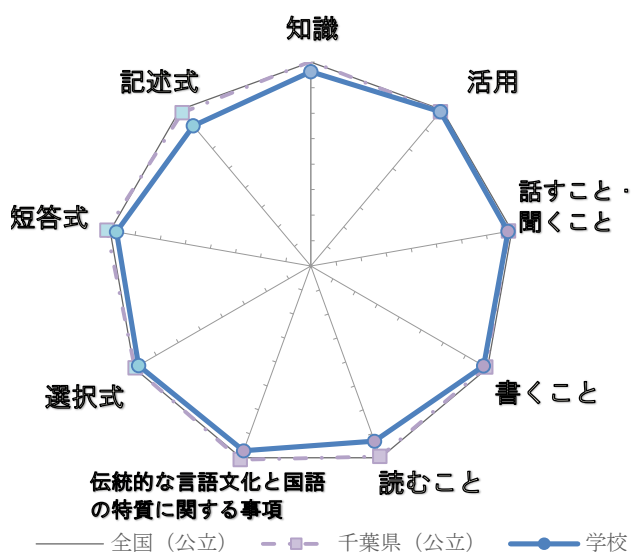
A：＋5.0％より上回っている場合「良好」

B：＋5.0％～－5.0の場合「ほぼ同じ」

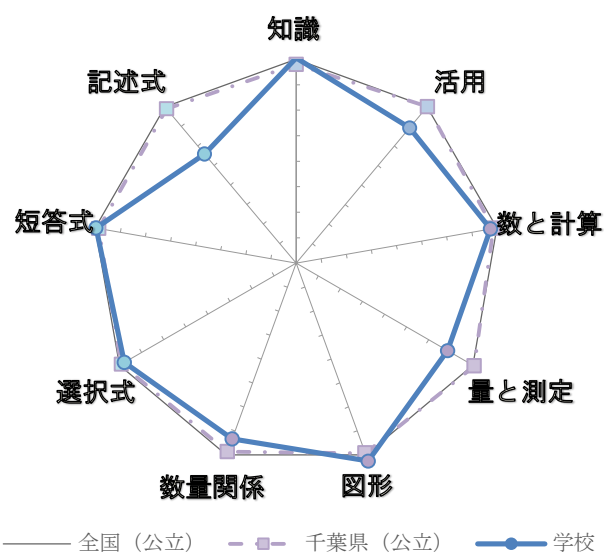
C：－5.0％より下回っている場合「要改善」

(2) レーダーチャート

<国語>



<算数>



3 結果分析

(1) 学習面について

国語の「話すこと・聞くこと」や「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「書くこと」などの正答率は、全国平均に近い値となりました。漢字・ことわざに関すること、目的や意図に応じて適切な言葉遣いで話したり、引用して書いたりすることは、比較的身に付いているようです。毎月行っている漢字検定の効果も表れているようです。しかし、「読むこと」の正答率は、平均よりやや低くなりました。俳句・物語などの情景や心情をとらえることや、目的に応じて必要な情報を見つけて読むことなどは、まだ十分ではありません。記述式の問題に課題があるので、必要な事柄を書くという時間を確保し、書くことに対する抵抗を少なくしていきたいと思います。

算数は、「数と計算」「図形」においては全国平均に近いですが、「量と測定」「数量関係」においては平均を下回りました。小数の乗法や最小公倍数、立方体の位置関係など、全国平均より正答率が高いものがあるものの、図形の面積や仮の平均を活用する問題、割合に関する問題などは、低い正答率でした。記述式の問題では無解答も見られました。今まで以上に、数学的な考え方を必要とする問題に力を入れていく必要があります。

(2) 児童質問紙調査から

「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時間に寝ている・起きている」と回答している児童は全国平均に近く、生活習慣はよい傾向にあります。

「平日、授業以外に勉強している時間は1日1時間より少ない」と回答している児童が多くいました。さらに、授業の予習・復習の時間や、土日に勉強する時間も少なめでした。土日を含めた家庭学習の時間が長い児童、予習をしたり、自分で計画を立てて学習したりしている児童の方が、正答率が高いという結果が出ました。「平日1日4時間以上テレビ・ビデオ・DVDがついている」「3時間以上テレビゲームを行っている」と回答している児童も多くいました。テレビやDVD、テレビゲー

ムなどの時間のルールを決めていない家庭も多く、学習習慣については課題が残ります。テレビやDVD、テレビゲームの時間が短い児童の方が、正答率が高いという結果が出ました。

友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことや、友達の考えを受け止めて自分の考えをもつことができる児童が、全国平均より多くいました。そして、課題に対して自ら考えて取り組んだり、調べたことを話し合っ発表したりする児童の方が、正答率が高いという結果も出ました。また、地域や社会の出来事に関心があり、新聞を読んだり、ニュースを見たりする児童は、よい成績であるという結果も出ました。

「自分にはよいところがある」と回答している児童が、全国平均より少なかったです。物事を最後までやり遂げ、達成感を味わった児童の学力は高いという結果も出ています。

4 まとめ

- 学校では、子どもたちが課題意識をもち、自ら取り組めるように学習内容や指導方法を工夫します。学習意欲を高め、個別支援に力を入れ「わかる授業・楽しい授業」を推進していきます。基礎・基本の習得を図るとともに、それを活用する力を身に付けるようにしたいです。自分の考えを多様な方法で書くことや、グループでの話し合い・学級での発表の場を増やし、表現力を身につけさせたいと思います。
- 学級活動や学年・学校の行事等を充実させ、児童の活躍の場を大切にします。一人一人に最後まで取り組ませ、児童の頑張りを認め「ほめる」指導を心がけ、自信をもたせていきます。毎日の生活や学習でも、よさや頑張りを認め合う場を大切に、児童一人一人に自信をもたせるようにします。自分の良さがわかり、自己存在感や自己有用感をもち、将来の夢や目標をもてる児童の育成に努めます。
- 規則正しい就寝・起床、朝食は、とても大事です。睡眠をしっかりと、朝食を食べるなどの生活習慣がきちんとしている児童は、学習意欲もあり、精神的にも安定しています。「テレビやゲームの時間が長い」「宿題や家庭学習・読書をしていない」「新聞を読まない」という児童も見られます。規則正しい生活リズムの確立が学習効果を上げると考えられます。家庭での過ごし方について、お子さんと話し合い、テレビやゲームなどのルールを決めることも大切なことだと思います。
- 児童の学力の向上は、生活習慣や家庭学習・読書習慣などとも関係し、学校と家庭とが協力し合うことで達成できます。学習に関することや社会の様々な事柄に興味関心が向くように、引き続き、保護者の皆様のご協力をお願いします。